



天后宮

指定名称 てんこうぐう 天后宮
 (県指定有形文化財建造物)

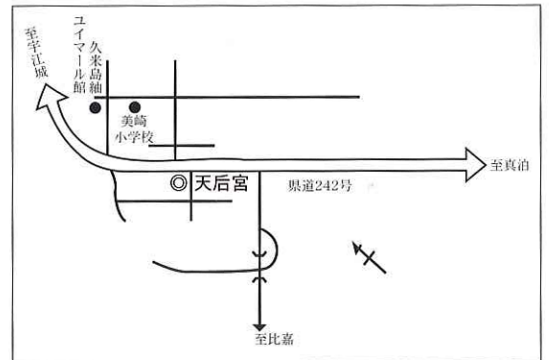
員数 1棟

所在地 久米島町字真謝66

指定年月日 昭和31年2月22日

所有者 久米島町

ぶさーどー 菩薩堂とも呼ばれ、三間四方の入母屋造りの本瓦葺きの建物である。四方に雨端がめぐらされ、室内正面に仏壇を設け、厨子を安置、その中に天妃像を中央にして左右に千里眼、順風耳の二神が配されていたが、いずれも損壊している。1756年、しょうぼく 尚穆王の冊封のために来琉した冊封使一行(正使全魁、副使しゅうこう 周煌)が真謝泊港外で台風のため座礁し、地頭代宇根親雲上絜聡をはじめ、住民らにより全員(200人余)救助され、無事、冊封の儀式を行うこと



ができた。これを神佑として感謝して進言し、1759年に天后宮を建立させた。建設に当たっては、正副使並びに随員が工費銀を寄進したが、これを永代祭祀料として保管し、「ブサーグムチ」としてその利子で明治末まで祭祀が行われていた。また、同敷地内には周煌撰文による「琉球国新建姑米山天后宮碑記」の石碑がある。